

「古田小の古田棒踊・古田獅子舞」伝承活動の取組

1 学校名

西之表市立古田小学校

2 学年・人数

- (1) 古田棒踊：小学5・6年生（計11人）
- (2) 古田獅子舞（小猿役）：小学3年生男子（計3人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

- ア 古田棒踊：9月（古田小学校体育館，旧古田中学校体育館，古田校区グラウンド）
- イ 古田獅子舞：10月，放課後（古田中央公民館）

(2) 発表の日時・場所

- ア 古田棒踊：古田小・校区合同大運動会（9月23日），願成就^{がんじょうじゆ}（10月21日）
- イ 古田獅子舞：願成就^{がんじょうじゆ}（10月21日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

- ア 古田棒踊（ふるたぼうおどり）
- イ 古田獅子舞（ふるたししまい）

(2) 由来

ア 古田棒踊

大正10年に日置郡より安城（あんじょう）に移住し，その後，古田に転住された上妻次郎氏が，当時の青年会長だった上妻静馬氏に伝えたことが始まりで，その後，古田豊受神社の願成就（がんじょうじゆ）で奉納されてきた。

しかし，戦時中以後しばらく途絶え，昭和54年に保存会の尽力により復活した。その際，古田中学校の生徒にも協力が要請された。古田中学校の統廃合により，古田小学校の5・6年生児童が棒踊りの担い手となり，現在に至る。

イ 古田獅子舞

大分県から椎茸栽培のために古田に移住してきた川野幸太郎氏と石井又蔵氏が古田の若者に教え，大正3年に，大正天皇御即位記念として古田豊受神社に奉納して以来，願成就に奉納，伝承されてきている。

(3) 構成等

ア 古田棒踊は，6人が1組になり，鎌は中央，棒は鎌の両サイドの配置の3列に並ぶ。150cmの棒と70cmの鎌を激しく打ち合う勇壮さと，前後左右巧みにすばやく動くスピード感が特徴的である。入場→棒突き→本踊り→退場の4部構成になっており，2回繰り返される。服装は，かすりの着物に，テコ，脚絆，赤い前掛け，白いハチマキ，白いタスキ，黄色の帯を締めている。

イ 古田獅子舞は，獅子（2人），天狗，小猿（2人），大太鼓と小太鼓，笛10人以上の総勢18，19人で構成される。小猿は小学3年生の男子，獅子・天狗・太

鼓は青年、笛は青壮年が担当する。

獅子と天狗が激しく闘い、「ホース」という掛け声を発して気合いを入れ、緊迫感を出す。後半、獅子は弱まるが、最後に蘇り引き分けの形になる。

5 保存会や地域との連携の具体

- (1) 9月に行われる小学校・校区合同大運動会の練習に、棒踊り保存会の方々に来校してもらい、初めて踊る5年生を中心に指導していただいている。また、運動会直前の週休日には、中学生も練習に合流する。運動会当日は、小学生5・6年生、校区在住の中学生、5・6年担任と一緒に踊り、歌は保存会の方々が歌う。願成就前には、棒踊り保存会の方々を指導者として、小学校の管理職、職員有志が5回程度の練習に参加する。願成就当日は、棒踊り保存会、地域の方々と一緒に校区在住の小・中・高校生、教職員と一緒に踊りを奉納する。
- (2) 獅子舞の指導は、獅子舞保存会の方々が行う。願成就前の数日間、午後8時からの練習に小猿役の3年生も参加する。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 棒踊りは、毎年高学年が踊るために、6年生が、初めて経験する5年生にアドバイスをしながら練習を進める。保存会の方々も5年生を中心に関わってくださる。また、願成就では、毎年、中・高校生が小学生と一緒に踊るために、小学生は、自分たちも継承していく担い手としての意識を、自然に身に付けている。
- (2) 児童にとって、5年生になれば棒踊りを、3年生になれば獅子舞の小猿の担い手になれるという大きな目標をもたせることができ、これは学校経営・学級経営にも反映させている。
- (3) 本年度は、子ども会が中心になり、獅子舞調査隊を結成した。100周年を迎える獅子舞の歴史や伝承してきた人々の思いを調べ、願成就で発表した。校区文化祭でも発表する予定である。
- (4) 地域をあげた行事である願成就であるため、児童の取組の様子は、学校だよりやブログ、校内掲示板等で、保護者や地域の方々に積極的に広報している。

7 取組の様子



棒踊り保存会の方の指導



小学校・校区合同大運動会での棒踊りの発表



願成就での棒踊りの発表



願成就での小猿役の発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 児童

- ・ 練習の時は、6年生として初心者5年生に教えるのは一苦労でした。教えながら、伝統芸能の伝承の難しさを感じました。また、中学生、高校生でもするので、楽しみです。
- ・ 小学3年生になって子猿役をさせてもらったので嬉しかったです。最初は動きが分からず大変でしたが、とても楽しく踊れました。

(2) 保護者

- ・ 子どもたちが幼い頃から獅子舞、棒踊りを見ることで、いつかは自分も参加するのだろうという自覚をもつと思います。また、実際に参加することで、地域とのつながり、古田の子どもとして自分たちが大切にされていると感じると思います。
- ・ 小猿役を通して、天狗や獅子舞をまねをして覚えることを通して、大人になってから伝統芸能を守っていくのだろうなあと思いました。子どもたちも小猿役ができたことを誇りに思っているようです。
- ・ 獅子舞についてとてもよく調べられていて感心しました。子どもが調べたことを学校や公民館に掲示していただきたいです。

(3) 保存会・子ども会

- ・ 全員戸惑いなく、自然に練習に取り組んでくれることが嬉しいし、この伝統をいつまでも受け継いでもらいたいと思っています。
- ・ 練習の初日は遊び気分の子どもたちが、獅子舞保存会のおじさんたちが必死に教えているとだんだん顔つきが変わってきます。当日はとてもいい顔になりかっこいいです。
- ・ 自分たちもそうであったように、小さい頃から心に刻まれた勇壮な舞、笛の音、太鼓の音に子どもたちは獅子舞に参加することに喜びと誇りを感じているのだと思います。大人になってもこの素晴らしい獅子舞を受け継ぎ、後世に伝えていって欲しいです。
- ・ 獅子舞調査という子ども会での活動を、発表の場を多く与え、多方面の方々にも伝えたいと思います。

(4) 教職員

- ・ 伝統芸能に関わることで、地域の人々とのコミュニケーションが図られ、伝統芸能がもつよさが身に付き、故郷を誇りに思う人間形成の一助になっていると思います。